

2024年12月16日
株式会社日立製作所

「執行役社長兼 CEO の異動に関する説明会」登壇者による冒頭挨拶

1. 井原取締役会議長 指名委員長

ただいま紹介いただきました井原でございます。私は、取締役会議長と指名委員長を務めておりますので、まず冒頭私より、今回の CEO 交代に至った背景についてご説明いたします。

これまで日立の指名委員会では、CEO のサクセッションとトップリーダー候補者の選抜と育成について、時間をかけて徹底的に議論してまいりました。また、取締役会では、社外取締役同士が意見を活発に交換する場を設けたり、私自身が取締役一人ひとりと One-on-One ミーティングを行うなど、CEO サクセッションについて、時間をかけて取り組んでまいりました。今回の交代は、こうした一連の取り組みの結果であり、背景は私から皆様にお話するのが最も適切だと考えますので、私からご説明いたします。

改めまして、本日の取締役会で、来年の4月1日付で日立の社長兼 CEO を小島啓二さんから徳永俊昭さんに交代することを決定しました。小島さんには、来年4月1日より取締役副会長として、円滑なリーダーシップの移行と、日立のさらなる変革をサポートいただくこととなります。

私が日立の取締役に就任したのは2018年ですが、その時期は中西会長、東原社長の体制で、日立の Transformation が力強く推進されていた時でした。ご承知の通り、当時の日立グループは数多くの子会社群で構成されていましたが、社会イノベーション事業を推進する観点から、内部に取り込む会社とグループ外で成長をめざす会社に分け、資本市場でそれを実現してきました。

その一方で、将来を見据えグループの成長を担う事業として、2018年にABBからパワーグリッド事業を、さらに2021年にGlobalLogicを買収し、今日の日立の Portfolio をほぼ完成させました。またこれらの事業に牽引される形で、日立のグローバル化が大きく前進しました。

2021年に残念ながら中西会長が病に倒れられると、日立は東原会長、小島社長の体制となりました。

今日に至る3年間では、買収したこの2つの会社に加え、鉄道事業も軌道に乗り、オーガニックな成長を果たしています。小島さんの力強いリーダーシップのもとで、2024年度を最終年度とする現中期経営計画も概ね目標を達成できるものと考えています。

また、こうした努力が資本市場で評価され、日立の時価総額が大きく飛躍したことは特筆すべき成果であり

ます。小島さんは、研究者として培われた最先端の技術に関する洞察力と、資本市場と建設的な議論ができるコーポレートファイナンスに関する深い理解をお持ちで、CEO としてあまり例を見ない稀有な方だと思います。この数年の日立の成長に大きく貢献されたことに、取締役会としても敬意を表します。

これからの日立のさらなる成長を展望しますと、ここ数年で大きくグローバルに広がったインストールベースに、日立の持つデジタル技術に基づいたサービスを幅広く提供していくことが重要になります。

いま策定中の次期中期経営計画では、日立をデジタルセントリックな企業集団にさらに Transform し、オーガニック成長を加速していくことが大きな柱になるものと思います。

そのような将来の展望を念頭に、日立がグローバル企業としてさらに世界で伍していくには、このタイミングで社長兼 CEO のバトンを小島さんから徳永さんに渡すことが最善だと確信し、取締役会で決定致しました。

私は、2022 年から指名委員長を務めています。それ以前から、徳永さんは、常に将来の CEO の最有力候補に Nominate されており、指名委員会で今後のキャリアを議論してきました。

そして、5 年前から米国で日立全体のデジタル戦略をリードいただき、今年は次の中期経営計画をまとめていただくなど、常にタフなミッションに取り組んでいただきました。

将来の日立のリーダーたりえる人物か、その資質を絶えずテストされる環境は、極めてハードなものです。徳永さんは、そうした長く厳しいプロセスの中でも、取締役会を説得して GlobalLogic の買収を実現されるなど、信念と覚悟に基づいた強力なリーダーシップを発揮し、成果を積み重ねてこられました。その意味で、私を含めた指名委員会及び取締役会は、日立のグローバル成長をデジタルで牽引する社長兼 CEO として、徳永さんは経験、能力双方の面でベストな方であると確信しております。

来年 4 月 1 日の交代に向けて、取締役会は、小島さん、徳永さん、そして経営陣と連携しながら、円滑なリーダーシップの移行を実現してまいります。皆様方の変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

2. 小島執行役社長兼 CEO

小島でございます。本日は急なお声掛けにもかかわらず、お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

ただいま井原さんからご説明のありましたとおり、来年 4 月 1 日に、日立の執行役社長兼 CEO のバトンを、徳永さんに渡すことになりました。本日、まず私から皆さまにお伝えしたいのは、ステークホルダーの皆様への感謝の気持ちです。

「社会イノベーション事業」というコンセプトを定められた中西さんが、残念ながら 2021 年に病に倒れられ、その後、私が社長に就任しました。以降、投資家の皆様とは、常に建設的かつ真剣な議論を通して、経営戦略に重要な示唆と、経営改革への後押しをいただいております。

また、お客様やパートナー企業の皆様とは、共に経営課題や社会課題の解決に取り組ませていただき、日立の取締役の皆様にはその多様な知見から、常に経営への支援をいただけてきました。

そして、これまで私を支えてきてくれた経営チームのメンバー、世界中の全ての日立グループ社員に、深く感謝したいと思います。

私は、2024 中期経営計画で、日立の構造改革の成果を活かし、オーガニックな成長力を示して企業価値を向上させることに、ベストを尽くしてきました。この3年間で売上収益は目標を超えて年率10%の成長を達成し、利益は今年度の Adjusted EBITA で1兆円を超える見込みです。

また、最優先テーマとして、キャッシュ重視の経営に取り組み、コア・フリー・キャッシュフローは21中計から50%以上伸びて、約1.5兆円に拡大する見通しです。この結果、株主還元も強化することができ、3年間の配当と自己株取得の累計額は1兆円と、21中計の3倍以上となる見込みです。

事業の成長を支えるサステナブル経営にも力を入れ、お客様の脱炭素化への貢献、日立の事業活動におけるCO₂排出削減量、さらには従業員エンゲージメントスコアで、中計目標を超えて進捗しています。

こうした取り組みとその成果は、資本市場からも評価をいただき、時価総額も3年間で3倍に成長させることができました。CEO 就任時の「オーガニックな成長力を示して企業価値を向上させる」という目標は有言実行できたと、私は確かな手応えを感じております。

6月のInvestor Dayでお話したように、日立のトランスフォーメーション・ジャーニーに終わりはありません。これからは、さらにデジタルセントリックな企業となるべく、変革を続ける必要があります。

先ほど井原さんからお話がありましたように、24中計の達成に見通しが立った中で、日立を次のステージに導くリーダーとして、このたび取締役会において徳永さんが選任されました。

日立のCEOは、中計の立案から策定、そして実行までを含めて全責任を持ち、その達成ができるかどうかで評価されます。新しくCEOに就任する徳永さんは、24中計の策定、実行のコアメンバーであり、私も全幅の信頼を置いてきました。

デジタル事業を統括してグローバル成長を牽引するだけでなく、生成AIによる成長機会を捉え、NVIDIA や Microsoft といったグローバルリーダーとの協業を実現するなど、24中計の達成に向けて大きく貢献してきました。徳永さんは、次期中計の策定とその実行に全責任を持って、日立をさらなる成長のステージへ導いてくれるとおおいに期待しております。

私自身は、来年4月1日の交代までは社長兼CEOとして、日立の成長を加速し続けるとともに、スムーズな交代に向けて、次の定時株主総会までは副会長として、徳永さん、取締役会、そして経営陣と協力してまいります。その後についてはまだ決めておりませんが、研究者としての先端技術への理解と、CEOとしての資本市

場への理解を併せ持つという、これまで日立で培ってきた強みを活かして、日本企業の価値向上に貢献することができたら嬉しいと思っています。

最後になりますが、今の日立の成長をけん引しているのは、間違いなく「社会イノベーション事業」というコンセプトだと思います。それを示された、今は亡き中西さんに改めて深い尊敬の意を表し、私のご挨拶とさせていただきます。

3. 徳永次期執行役社長兼 CEO (現 執行役副社長)

このたび、来年4月1日付けで社長兼 CEO を拝命いたしました徳永です。どうぞよろしくお願いいたします。

私を新たな社長兼 CEO として選任いただいた取締役会の信頼に感謝すると同時に、その責任の重さを痛感しています。世界各地で日々業務に邁進する日立グループ 28 万人の社員とともに、社会へ新たな価値を届け、企業としての持続的な成長を実現していきたいと考えています。

私は、幸運にも 2 人の素晴らしいリーダーの下で仕事をすることができました。現会長の東原さんは大胆なポートフォリオ改革を通して今日の日立の経営基盤を築かれました。小島さんはオーガニック成長へのモードチェンジをリードされ、企業価値の大幅な向上を実現されました。

2009 年の経営危機以降、川村さんから中西さん、そしておふたりへと繋がれてきた経営のバトンを、今度は私自身がしっかりと受け取り、日立グループの持続的な成長を実現したいと考えております。

ただいま小島さんから私について紹介がありましたが、私は日立グループ創業の地である茨城県日立市に生まれ、1990 年に入社しました。国内金融機関様向けのシステムエンジニアを皮切りに、IT・デジタルを軸にしてキャリアを重ねてまいりました。

2014 年からは、エネルギーや鉄道領域において、IT、OT、プロダクトを組み合わせた社会イノベーション事業の創生に取り組み、日立グループの幅広い事業ポートフォリオを理解する機会を得ました。

また、2017 年からは、家電・空調事業の責任者として、デジタル技術の活用や事業体制の刷新を通じてトランスフォーメーションを進めました。

さらに、2019 年からは、米国シリコンバレーに渡って、グローバルな Lumada 事業の拡大に注力しました。

特に印象深い出来事は、やはり GlobalLogic の買収です。約 1 兆円というかつて経験したことのない規模の M&A に取り組んだことは、私のビジネスパーソンとしての覚悟を醸成してくれました。

そして、2021 年からは、日立のデジタル事業のトップとして、デジタルの力と日立グループのケイパビリティを組み合わせ、One Hitachi でお客様や社会課題の解決に取り組んできました。

日立グループの Lumada 事業は、2021 年の GlobalLogic 買収以降、グローバルでの成長を加速しています。全社売上収益に占める Lumada 事業の割合は、2024 年度末に 3 割に達する見通しであり、中長期的には全社売上収益の過半を占めることをめざしています。

また、急速に進化する生成 AI を日立の成長に繋げるため、全社 AI トランスフォーメーションプロジェクトを立ち上げました。Generative AI Center の設置を手始めに、NVIDIA やマイクロソフト、Google、アマゾンウェブサービスといったテックジャイアンツとの協業など、様々な打ち手を講じてまいりました。

現在策定している次期中期経営計画においては、デジタルをコアにして「真の One Hitachi」を実現し、社会イノベーション事業のグローバルリーダーをめざす歩みを加速してまいります。具体的には、Lumada をより進化させること、グローバル各地域での成長機会の探索を強化すること、そして、One Hitachi で新規事業を創生する取り組みを加速することにより、日立グループの持続的な成長を実現します。

東原さんが実行された不断のポートフォリオ改革と、小島さんが推進されているキャッシュフローと資本効率重視の経営をしっかりと受け継ぎ、企業価値の向上に一層努力してまいります。

また、特にここ数年、日立グループに対する資本市場の評価が大きく変化したことを強く意識しており、財務規律を重視し透明性ある経営を進めながら、資本市場をはじめ様々なステークホルダーの皆様と深く対話していきたいと考えております。

さらに、日立グループを持続的に成長させ、企業価値向上を実現するには、経済・社会の変化を機敏に捉え、考え方や仕事の進め方をトランスフォームし続ける必要があると考えています。いわば、世界の変化を先取りし、日立グループを形作っている私たち一人ひとりの「OS：Operating System」を入れ替え続けていくことが必要不可欠であると考えており、私自身が先頭に立って、変革を推進していく覚悟です。

一方で、こうした変化の激しい世界だからこそ、創業社長の小平浪平から 110 年以上にわたって受け継いできた変わらぬ日立の存在意義、「技術による社会への貢献」は、ますますその重みを増していると考えています。この存在意義を将来にわたって体現し続けるために、日立グループは、複雑化する社会課題・経営課題に正面から向き合い、技術の変化点を機敏に捉え、成長に繋げていきます。

取締役会、経営陣、そして世界中の日立グループ社員と力を合わせて、デジタルをコアとする「真の One Hitachi」を通じ、社会イノベーション事業のグローバルリーダーをめざして取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

以上